

日本アニメ界の重鎮 鈴木伸一、古川タク イタリア、ドイツでアニメを語る

国際交流基金（ジャパンファウンデーション）では、日本文化紹介のための専門家派遣事業を行っています（日本文化紹介派遣プログラム）。世界各地へ派遣される専門家が、華道・茶道などの伝統文化からアニメーションや建築などの現代文化まで、日本の生活や文化に関するさまざまな講演会やデモンストレーションを実施し、多面的な日本文化理解を促進しています。この度は、世界各地で日本のアニメ文化への関心が高まっている情勢を反映し、イタリア（ローマ）とドイツ（ハンブルク、ハノーファー、ケルン）へ、日本アニメ界の重鎮を派遣し、講演会を行います。

派遣するのは、トキワ荘*1で暮らし、「ラーメン大好き小池さん」*2のモデルにもなった鈴木伸一（杉並アニメーションミュージアム館長）と、イラスト・アニメ作家としてユニークな作風で知られる古川タク（日本アニメーション協会会長）。今も新しい作品を生み出しているお二人。アニメの歴史を、二人の豊富な経験と作品上映を交えてレクチャーするほか、アニメの将来について語ります。

*1 1950年代に多くの漫画家が居住したアパート *2 藤子不二雄の漫画に登場するキャラクター

レクチャー日程

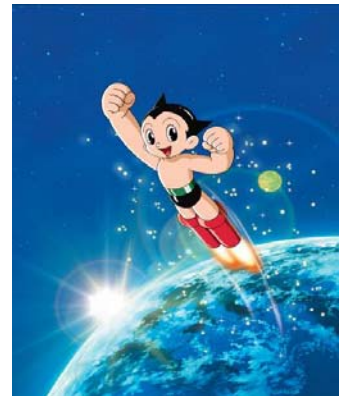
イタリア 9/29 ローマ／ローマ日本文化会館、9/30 ローマ／”ROMICS”会場
ドイツ 10/1 ハンブルクアニメ専門学校
10/2・3 ハノーファー／”NiCon”会場、10/4 ケルン／ケルン日本文化会館

レクチャー講師



鈴木伸一 杉並アニメーションミュージアム館長

1933年(昭和8年)長崎県生まれ。漫画家・アニメーション作家。中学時代に漫画の投稿とディズニー・アニメに熱中。上京後、トキワ荘で若い漫画家たちと共同生活をおくる。1958年“フクちゃん”の漫画で有名な横山隆一主宰の“おとぎプロダクション”に入りアニメーターの道へ。その後トキワ荘の仲間、藤子・F・不二雄、石ノ森章太郎、藤子不二雄[Ⓐ]、赤塚不二夫、つのだじろう他と“スタジオゼロ”を設立。現在、文化庁メディア芸術祭アニメ審査委員、日本アニメーション協会名誉会員、杉並アニメーションミュージアム館長。



(C)TEZUKA PRODUCTIONS・SPEJ

鈴木氏は「鉄腕アトム」のほか、「おそ松くん」、「パーマン」、「火の鳥」など、多くのアニメ制作に関わった。



古川タク 日本アニメーション協会会長

1941年、三重県生まれ。TCJ、久里実験漫画工房を経て70年代よりひとこま漫画家、アニメーション作家、絵本作家など多岐の肩書きを持ち、ふにやふにや線画によるマルチアーティストとして今日に至る。アヌシー国際アニメーション映画祭審査員特別賞、第25回文芸春秋漫画賞、毎日映画コンクール大藤信郎賞、朝日広告賞、文化庁メディア芸術祭優秀賞、紫綬褒章など受賞。近著に古川タク瞬間漫画集「ブルブル」(文源庫)、ユーモア詩の絵本「ぼくの犬は無口です」(伊藤英治 編 岩崎書店)。東京工芸大学芸術学部客員教授、日本アニメーション協会会長。

※ 取材をご希望の場合は、担当者まで事前連絡をお願い致します

お問い合わせ:国際交流基金文化事業部生活文化チーム 担当:山出(やまで)

TEL 03-5369-6060 FAX 03-5369-6036 Email Yukiko_Yamade@jpf.go.jp